

## 小学校の適正規模について

### 1 基本的な考え方

本市の「第2次加須市人づくりプラン」では、今後の加須市の人づくりの課題を大きく次の7つ、①学力の向上、②豊かな心の育成、③健やかな体の育成、④学校教育環境の整備、⑤地域密着型教育の推進、⑥生涯学習の振興、⑦スポーツ・レクリエーションの振興に整理しています。

これら7つの課題のうち、④学校教育環境の整備では、『児童生徒数の減少に伴い、市立小中学校の学校規模の差異が非常に大きくなっていることから、及び市立小中学校の適正規模・適正配置を推進する必要があります。また、多くの学校施設は老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えることから、学校施設の大規模改修について、学校の適正規模・適正配置を踏まえながら、計画的に進める必要があります。』と、今後の課題を示しています。

### 2 加須市の現状

#### (1) 児童数

本市の児童数は、2010年度（平成22年度）5,993人と比較し、2022年度（令和4年度）5,127人と約85.5%に減少しており、将来人口推計においても、更に減少していくことが予測されている。

市立小学校が児童数を減らす中であって、特定の学校の小規模化が加速する一方、宅地開発により児童数が増加する学校は教室の確保が厳しくなっており、地域における差異は非常に大きくなっている。

#### (2) 小規模校と大規模校の利点と課題

##### ア 小規模校

《利点》・一人一人の児童の実態に応じ、寄り添ったきめ細やかな指導が行いやすい。

《課題》・競争する機会、切磋琢磨する機会が減少する。

- ・一定の人数を必要とするスポーツ競技や器楽演奏、合唱などの機会を失う。
- ・教職員数が確保できないため、通常の学校運営を行うために教職員の負担が大きくなる。

##### イ 大規模校

《利点》・多様なグループ活動が可能である。

- ・クラス替えもあり、様々な価値観を持つ友人と接することができ、新しい自分づくりにチャレンジすることができる。

《課題》・一人一人の児童についての理解と教職員間での共有化が難しいため、学年セクトになりやすい。

- ・学校行事等において係や役割分担のない児童が現れる可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が限られる。

(3) 小学校の現状と見込み

ア 学級

i 単学級の状況（全ての学年が単学級の小学校）

令和4年度 11校（11/22：50%）	令和10年度見込み 14校（14/22：64%）
不動岡小学校 樋遣川小学校 志多見小学校 大越小学校 田ヶ谷小学校 種足小学校 鴻荃小学校 北川辺西小学校 原道小学校 豊野小学校	不動岡小学校 樋遣川小学校 志多見小学校 大越小学校 加須南小学校 騎西小学校 田ヶ谷小学校 種足小学校 鴻荃小学校 北川辺西小学校 大利根東小学校 原道小学校 豊野小学校

※令和4年4月1日現在の住民登録データを基に、今後の転出入・特別支援学校への入学等がないものとして見込んだ場合

ii 複式学級の状況

令和4年度 1校	令和10年度見込み 3校
大越小学校：1クラス（3.4年生）	樋遣川小学校：1クラス（2.3年生） 大越小学校：2クラス（1.2年生、3.4年生） 原道小学校：1クラス（1.2年生）

※令和4年4月1日現在の住民登録データを基に、今後の転出入・特別支援学校への入学等がないものとして見込んだ場合

公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律施行令

（数学年の児童又は生徒を一学級に編制する場合の標準）

第1条 表中

小学校の引き続き2の学年（第1学年を含むものを除く。）の児童の数の合計数が16人以下である場合（当該引き続き2の学年が1の学年と当該学年より1学年上の学年及び1学年下の学年以外の学年とである場合で、当該引き続き2の学年のいずれかの児童の数が8人を超えるときを除く。）

イ 分離校（分離元校・分離先校）の状況

i 加須小学校・加須南小学校（新設分離日：平成10年4月1日）

学校名		令和4年度	令和10年度見込み
分離元校	加須小学校	児童数 419人	児童数 304人
		クラス数 12+5クラス 余裕教室 9クラス	クラス数 12+5クラス 余裕教室 9クラス
分離先校	加須南小学校	児童数 191人	児童数 157人
		クラス数 7+2クラス 余裕教室 6クラス	クラス数 6+2クラス 余裕教室 7クラス

ii 大桑小学校・花崎北小学校（新設分離日：平成4年4月1日）

学校名		令和4年度	令和10年度見込み
分離元校	大桑小学校	児童数 478人 クラス数 15+6クラス 余裕教室 2クラス	児童数 421人 クラス数 14+6クラス 余裕教室 3クラス
分離先校	花崎北小学校	児童数 276人 クラス数 10+2クラス 余裕教室 12クラス	児童数 243人 クラス数 11+2クラス 余裕教室 11クラス

ウ 通学区域（大規模校と小規模校の隣接）の状況

i 旧行政区域内

学校名	令和4年度	通学区域	隣接地
水深小学校	児童数 620人 クラス数 18+5クラス 余裕教室 0クラス	水深・北辻・今銚・割目・油井ヶ島・常泉・南小浜・下高柳一丁目・下高柳（加須南小学校の通学学区を除く。） ・船越・大室	
加須南小学校	児童数 191人 クラス数 7+2クラス 余裕教室 6クラス	南町・富士見町・久下六丁目・久下・下高柳（1877番地から1881番地まで、1884番地から1891番地まで、1932番地、1935番地、1941番地、1954番地から1958番地まで、1979番地から1981番地まで、1991番地、1997番地、1998番地、2011番地、2012番地、2028番地）	常泉 下高柳一丁目

ii 旧行政区域

学校名	令和4年度	通学区域	隣接地
高柳小学校	児童数 185人 クラス数 8+2クラス 余裕教室 1クラス	上高柳・日出安・戸崎・正能 （騎西小学校通学区域を除く。）	
加須南小学校	児童数 191人 クラス数 7+2クラス 余裕教室 6クラス	南町・富士見町・久下六丁目・久下・下高柳（1877番地から1881番地まで、1884番地から1891番地まで、1932番地、1935番地、1941番地、1954番地から1958番地まで、1979番地から1981番地まで、1991番地、1997番地、1998番地、2011番地、2012番地、2028番地）	上高柳 日出安

※三俣小学校 北篠崎地内通学距離：3.3キロメートル

(4) 教育施設以外との施設の共同利用（複合化）の状況

少子化の影響を受け、児童数を減らしている学校施設を有効活用するため、余裕教室を地域のコミュニティの拠点や子育て支援の拠点に活用している。

ア 地域コミュニティの拠点（コミュニティセンター）

- ・北川辺中学校と北川辺コミュニティセンターの複合化【令和4年2月1日】

イ 子育て支援の拠点（幼稚園）

- ・騎西小学校と騎西中央幼稚園の複合化【令和2年1月(3学期)】
- ・子育て支援の拠点（放課後児童クラブ）

加須小学校ほか11校

加須小学校 不動岡小学校 大桑小学校 水深小学校 樋遣川小学校  
志多見小学校 花崎北小学校 加須南小学校 大利根東小学校 原道小学校  
豊野小学校 元和小学校

(5) 今後の小学校の種類について

- 小学校（単独施設）
- 小学校（他施設との複合化施設）
- 義務教育学校（施設一体型）
- 義務教育学校（施設隣接型）
- 義務教育学校（施設分離型）
- 小中一貫校（施設一体型）
- 小中一貫校（施設隣接型）
- 小中一貫校（施設分離型）

種 別	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
施設	施設一体型 施設隣接型 施設分離型	施設一体型 施設隣接型 施設分離型
校長	1名	それぞれ配置
職員組織	1つの教職員組織	それぞれ別々の教職員組織
修業年限	9年間（前期課程6年＋後期課程3年）	小学校6年 中学校3年

- ・施設一体型: 小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置されている
- ・施設隣接型: 小学校の校舎と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されている
- ・施設分離型: 小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている

### 3 加須市における小学校の適正規模（案）について

本市では、規模による課題を最小化し、学習指導要領に示されている主体的・対話的で深い学びの実現ができると同時に、専任の教務主任の確保や教職員の十分な育成を図ることが可能な学校規模として、次のとおり考える。

- 適正な教育活動を展開するために、1学級の人数は20人以上が望ましい。
- 小学校の通常学級の適正な学級数を、概ね12学級程度が望ましい。
- 多様な人間関係を築くことのできるクラス替えが可能であることが望ましい。

○義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令

（適正な学校規模の条件）

第4条第1項第1号

学級数が、小学校及び中学校にあってはおおむね 12学級から18学級まで、…あること。